平成 21 年度第 2 回日本生物物理学会運営委員会議事
日時：平成 21 年 2 月 7 日（土）13 時～
場所：名古屋大学鶴友会館 2 階大会議場
出席者：曽我部、片岡、神取、原田、相沢、有賀、伊藤（悦）、今田、金城、栗原、佐甲、貞包、諏訪、高橋（一）、辰巳、光岡、船津、山縣、桐野、鈴木、神田（大）、七田、石渡、石島、永山、神田（律）、高橋（美）

報告事項：

1. 本年度の方針（曽我部）

資料（報 1）に基づいて、会長の曽我部氏より、国際化と人材育成への対応を中心に、今期執行部の基本方針について説明が行われた。

2. 平成 20 年度年会総括報告（神田）

資料（報 2）に基づいて、2008 年 12 月 3 日～5 日に福岡で開催された第 46 回年会について、実行委員長の神田氏より、決算の報告及び、予稿集準備、領収書発行、会場設備、弁当の量等の問題点について報告が行われた。また、2 件のランチョンセミナーからの広告費が未回収であることが報告された。

3. 平成 21 年度年会準備状況（桐野）

資料（報 3）に基づいて、2009 年 10 月 30 日～11 月 1 日に徳島で開催予定の第 47 回年会の準備状況について、実行委員長の桐野氏より報告が行われた。また、シンポジウム企画には、公募企画が 21 件、運営委員会企画が 1 件提案されたことが報告され、審議の結果、これらすべてが承認された（運営委員会企画の詳細については後述）。公募企画のうちの一件については、一部の講演をポスターから選ぶこと、またそのために事前にポスター発表の内容をオーガナイザーに通知するという特例措置を取る必要があることが報告され、運営委員会にて承認された。

その他に、以下の報告がなされた。

- 口頭発表およびシンポジウムについてはすべて英語で行う。
- 予稿の集計についてはこれまで利用していた UMIN を用いずに JTB マルチエントリーシステムを利用する。
- 登録方法については前年会まで行われていた郵送・FAX・メールでの対応を削除する。
- 予稿の締切りを 6 月 5 日まで、若手奨励賞のエントリーを 6 月 12 日までとする。
- 国外の組織に所属する研究者については、本学会員でなくとも本学会員と同様の立場での参加を認める。

- 口頭発表とポスター発表の両方を選択することを可能にする。
- 託児所について、徳島県の規定により例年とは異なり未就学児までとする。

4. 平成 22 年度年会準備状況（鈴木）

資料（報 4）に基づいて、2010 年 9 月 22 日～24 日に仙台で開催予定の第 48 回年会の準備状況について、実行委員長の鈴木氏より報告が行われた。25 日に市民講演会を予定していることが報告された。会場の候補となる東北大学川内キャンパス及び仙台国際センターについて、それぞれで行われた場合のメリットとデメリットが報告された。

5. 出版委員会報告（神取）

午前 11 時より開催された出版委員会での審議内容について、出版委員長の神取氏より概要の報告がなされた。「生物物理」のアーカイブ化の進行状況、1 月 30 日に行われた UMIN の 20 周年記念行事についての報告がなされた。続いて、各編集委員会から詳細な説明が行われた。

邦文誌「生物物理」について、会誌編集委員長の七田氏より、ページ数の厳守による出版費の削減について報告がなされた。

欧文誌「BIOPHYSICS」について、欧文誌編集委員長の石渡氏により、現状報告と、出版委員会で議論された英文投稿規程の改訂についての報告がなされた。今後、欧文誌副編集委員の人数を増やす提案を行い、後日メールにて委員会の承認を求める旨が確認された。また、ABA との連携を深めるためのレビュー依頼などの提案がなされた。

6. 男女共同参画・若手問題検討委員会報告（原田）

午前 11 時より開催された男女共同参画若手問題検討委員会での審議内容について、男女共同参画・若手問題検討委員会委員長の原田氏より報告が行われた。男女・若手問題の窓口機能を設けることが重要であり、学会でディスカッションを行うという提案がなされた。女性の会員数について、きちんと調査して目標値を設定することの重要性が報告された。キャリアパス問題について、年会のシンポジウムでキャリアパスの演者を二人呼ぶという提案がなされた。

7. 男女共同参画学協会連絡会報告（原田）

資料（報 7）に基づいて、男女共同参画・若手問題検討委員会委員長の原田氏より 12 月 18 日に行われた男女共同参画学協会連絡会・第七期第一回運営委員会の報告がなされた。学協会と幹事学会についての簡単な説明の後、第 6 期の事業報告、第 7 期の事業計画、および審議事項について報告がなされた。また、日中韓女性指導者フォーラムについて学会として共催を行うこと、また運営委員の推薦については学会会期と重なるため推薦しないことが報告された。

続いて、男女共同参画・若手問題検討委員の佐甲氏より、女子中高生夏の学校 2008 の参加報告がなされた。問題点として、「生物物理とはなんなのか？」といった質問が引率の先生や他学会参加者からもなされた点が挙げられた。啓蒙活動についての重要性と、アイデアの募集が提案された。

8. 学会パンフレット送付について（佐甲）

資料（報 8）に基づいて、企画・啓蒙活動担当委員の佐甲氏より、学会パンフレットの配布についての報告がなされた。5000 部印刷したうち、各大学学科向けに配布を行った結果数百部を残すのみとなっていることが報告された。内容について、まだ文字が多いといった意見があることが報告された。まだ初版であり、今後改訂しながら増刷を行う旨が確認された。また、パンフレットはあくまでもダイジェスト版であり、ホームページの内容をより充実させるという提案がなされた。

9. 生物科学学会連合連絡会議報告（曽我部）

資料（報 9）に基づいて、会長の曽我部氏より 2009 年 1 月 26 日に東京で開かれた生物科学学会連合連絡会議の報告がなされた。連絡会議の設立趣旨と、法人化についての説明、及び、キャリアパスの問題について問題点と学会間での協力体制について報告がなされた。

10. IUPAB/ABA、学術会議関連報告（永山、栗原）

1) 第 6 回 ABA シンポジウム報告

資料（報 10）に基づいて、永山氏より、第 6 回 ABA シンポジウムについての報告がなされた。会議の雰囲気について報告された後、理事会報告として、常に開催国学会との共催という形をとり、二年に一回開かれることが報告された。次回はインドのベリーで 2 年後に行われ、次々回は韓国での開催が予定されていると報告された。

2) 学術会議「日本の展望」

資料（報 10）に基づいて、栗原氏より、学術会議「日本の展望」について報告がなされた。学術会議と生物物理学分科会の連携と、中長期的課題が報告された。また、大学に学科として足場を持たないにもかかわらず世界をリードしているという生物物理独自の特色についての意見と、学科大学を超えた連携をつくるべきであるという提案がなされた。各委員からも、生物物理という学問の持つオープンさを生かして、学会だけでなくジェネラルな分野から積極的に具体的な提言を行っていくべきであるという意見が述べられた。また、共通課題として、アジアとの連携に力を向ける必要性についての報告がなされた。

11. 会員関連報告（諏訪）

資料（報 11）に基づいて、2008 年度の会費長期滞納による除籍者数の報告がなされた。また、年度ごとの新規会員及び退会のリストについて報告がなされた。データベースの価値と分析の重要性について意見が出された。

12. その他

若手担当委員の相沢氏・有賀氏より生物物理若手の会の活動報告がなされた。第 49 回生物物理若手の会夏の学校が、2009 年 7 月 31 日―8 月 3 日に北海道で開催されるとの報告がなされた。

議題：

1. 平成 20 年度決算報告（案）の承認（船津）

資料（議 1）に基づいて、平成 20 年度収支決算（案）について報告があった。収入については、広告収入が大きく減少傾向にある旨が報告された。支出についてはページ数の削減により出版費が大きく削減されたこと、予稿集の減量に伴い発送費も削減されたことなどが報告された。また、全収支については、1 月 1 日を年度更新とする変更に伴い業務委託費が四半期分過剰に計上されたために見かけ上赤字となっているが、実質的には少しの黒字であることが報告された。また広告収入減に伴い、新事業のための予算が取れないことが問題であるとの提言がなされた。

最終的に、平成 20 年度収支決算（案）が承認された。

2. 広告について（伊藤）

資料（議 2）に基づいて、「生物物理」会誌の広告についての報告がなされた。本学会員がどの企業からどのような物品を買っているかの状況をサーベイすることが必要であり、分野別専門委員に対してその調査をさせていただくとの提案がなされた。続いて、その情報を元に、エー・イー企画や各研究者を通じて広告掲載の依頼を行ってもらうとの提案もなされた。

それらの提案について了承された。

3. ホームページ編集委員会より議題（石島、相沢）

資料（議 3）に基づいて、ホームページ委員会委員長の石島氏よりホームページ委員会の報告及び議題の提出が行われた。下記の 6 つのアクションプランについて報告がなされた。

1) 各分野の研究紹介

ホームページ(以下 HP)のアクセス増加のため、各分野の研究紹介ページを充実させる取り組みについての現状報告がなされた。国際化に向けて英語版も作成するこ

と、各会員に依頼することなどが報告された。

2) 企業情報更新のトップページへのリンク

企業からのおしらせをトップページへ置いて企業へのアピールを行うという案が提案され、承認された。

3) HP の更新情報の会員への通達

HP トップのお知らせ情報を会員全員にメーリングリスト(以下 ML)で配信する案が提案され、月一回程度の配信を今後行ってゆくことが承認された。

4) HP、ML 関連業務の業務委託について

HP と ML 関連業務の現状について、ホームページ委員の相沢氏より説明がなされた。そして、HP の更新を月契約の業者に業務委託することが提案され、承認された。また、ML への更新情報発信の自動化を業務委託することが提案され、承認された。

5) 学会誌のお知らせ関連を HP に移行

学会誌のページ数削減、及び支出減少のため学会誌のお知らせ関連を HP に移行する案が提案された。まずは、どれだけの支出の減少が見込めるかの見積もりを行い、おいおい対応していくことが確認された。

6) メールアドレスの更新

メールアドレスが古くなってしまい、ML による全会員向けの情報が届いていない会員がいるという問題点が報告された。年会参加時にメールアドレスを出すので、会員としては更新したつもりになっているが、会員リストとのすり合わせが出来ていないことが原因であると予想された。その対応策についての幾つかの提案と、それらにかかる経費が報告された。

費用をかけずに行える当面の対応策として、学会誌巻頭言の横スペースにてアナウンスを行うとの提案がなされた。

4. 平成 22・23 年度学会委員会候補者の推薦について（辰巳）

資料（議 4）に基づいて、選挙管理委員長の辰巳氏より、平成 22・23 年度学会員選挙候補者の推薦について、例年よりも推薦者の人数が少ないことが報告された。問題点として、葉書形式による情報の漏えいや、候補者の名前と所属を書く必要があるが、名簿が不完全なため被選挙権を持つ候補者がわからないことなどが挙げられた。改善策として、候補者の名前だけの投票も有効にする、推薦者の人数を 3 名から 2 名に減らす、推薦者記名の替わりに会員番号の表記にする、メールでの投票を受け付けるなどの提案がなされた。

候補者については、名前のみ合っていれば有効票とすることが了承された。推薦者記名の替わりに会員番号の表記も認めえることが了承された。ただし、選挙中での大きな変更には問題があるため、その他の案については来年度以降の検討課題とすることが確

認された。

5. IUPAB/ABA 関連（永山）

永山氏より、ABA 次期日本代表運営委員についての提案がなされた。現在は曽我部氏と片岡氏の二名であり、永山はプレジデントとして活動しているとの現状が報告された。提案は保留とされた。

Biophysical Reviews 誌への投函について、若手の宣伝の場にすること、会員へ投稿依頼を行うことなどが提案された。外部からの問題であるため、運営委員としては対応のみを行うことが確認された。

6. 2009 年 10 月徳島年会運営委員会シンポ案（永山）

資料（議 6）に基づいて、永山氏より、次回徳島年会での運営委員会企画のシンポジウム案についての提案がなされた。提案されたシンポジウム案について、運営委員会企画として行われることが承認された。場合によってはシンポジウムの時間を 2 コマ使用する可能性があることが確認された。

また、現在提案されている 22 件のシンポジウム案は全て承認された。さらにサテライト企画用に 1 コマ用意してあることが確認された。

7. その他

年会のスポンサーシップについて、広告担当の伊藤氏より確認が求められた。シンポジウム企画による提案により企業からの支援を求める点と、「このシンポジウムは○○企業の支援による」という表記を行うことを可能とする点について承認された。ただし、冠シンポジウム（表題の先頭に企業名を表記するシンポジウム）については、行われないことが確認された。

連絡事項：

1. 次回運営委員会日程について（曽我部）

2009 年 6 月 6 日（土）13 時～　名古屋市公会堂

（11 時より出版委員会、男女共同参画・若手問題検討委員会開催）